

インドネシア国内における使用ワクチンに関する情報まとめ (6月22日時点)

在インドネシア日本国大使館まとめ

(注：WHO発表、インドネシア政府発表及び報道による情報を取りまとめたもの)

1. シノバック社製ワクチン

【原産国】中国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（1月11日）

【成分】不活化ウイルス

【有効性】インドネシア国内で行われた臨床試験で65.8%

インドネシア国内の2回接種済み医療従事者を対象とした調査で98%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】無し（MUIがハラールである旨の宗教令発出）

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

【使用プログラム】政府主導無料ワクチンプログラム

2. アストラゼネカ社製ワクチン

【原産国】英国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（3月9日）

【成分】ウイルスベクター（アデノウイルス型）

【有効性】インドネシア国外で行われた臨床試験で62.1%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛、血栓等

(注：因果関係は明らかでないが、血栓症をワクチン接種後に発症した例がある。)

【豚由来成分】有り（MUIがイスラム教徒でも接種可能と公表）

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

【使用プログラム】政府主導無料ワクチンプログラム

(使用一時停止後、使用再開決定あり)

3. シノファーム社製ワクチン

【原産国】中国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（4月29日）

【成分】不活化ウイルス

【有効性】インドネシア国外で行われた臨床試験で78.0%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】有り（MUIがイスラム教徒でも接種可能と公表）

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

【使用プログラム】企業主導「ゴトンロヨン・ワクチンプログラム」

4. スプートニク

【原産国】ロシア

【状況】インドネシア国内緊急使用未承認

【成分】ウイルスベクター（アデノウイルス型）

【有効性】今後判明

【安全性】今後判明

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】未掲載

【使用プログラム】企業主導「ゴトンロヨン・ワクチンプログラム」

5. モデルナ

【原産国】米国

【状況】インドネシア国内緊急使用未承認

【成分】メッセンジャーRNA

【有効性】インドネシア国外で行われた臨床試験で有効率が94.1%

【安全性】今後判明

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

【使用プログラム】企業主導「ゴトンロヨン・ワクチンプログラム」

6. カンシノ

【原産国】中国

【状況】インドネシア国内緊急使用未承認

【成分】ウイルスベクター（アデノウイルス型）

【有効性】今後判明

【安全性】今後判明

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】未掲載

【使用プログラム】企業主導「ゴトンロヨン・ワクチンプログラム」

※ ゴトンロヨン・ワクチンプログラムで使用するものとされている種類のワクチンについて、無償で提供されたものに関し、政府主導ワクチンプログラムでも使用可能であるとしています。

用語説明

(1) 不活化ウイルス

感染しないように人工的に不活化したウイルスやその一部であり、体内に投与されると当該ウイルスやその一部に対して免疫が生じる。

(2) ウイルスベクター

ウイルス遺伝子を別の無害化したウイルスに封入した物質であり、体内に投与されると運び込まれたウイルス遺伝子からウイルスタンパク質が合成されて免疫が生じる。

(3) メッセンジャーRNA

ウイルスタンパク質の遺伝子情報を持った物質であり、体内に投与されると当該ウイルスタンパク質が短期間だけ合成されて免疫が生じる。

(4) WHO緊急使用リスト

企業提出データ等を基に、WHOがワクチンの有効性や安全性を審査し、ワクチン接種によるメリットがデメリットを上回れば同リストに掲載される。薬事審査体制が整っていない途上国が自国でワクチンの緊急使用の可否を判断する際の目安とされることを目的とした制度。ユニセフ等の国際機関がワクチンを調達する際にも参照される。